

# WORLD NEWS

熊本市小学校英語教育研究会 R6.1.25

## 主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする 外国語活動を目指して！

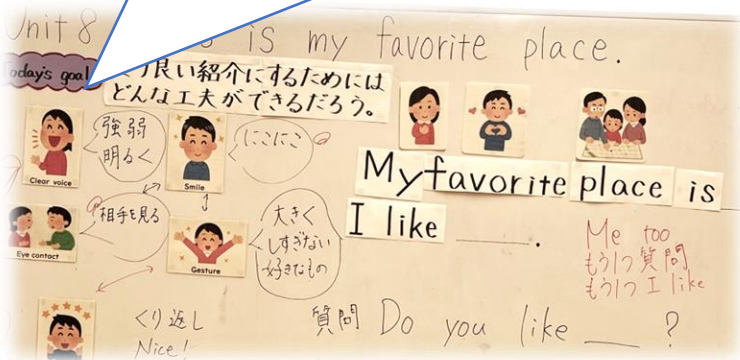
1月25日(木)に行われました一斉授業研究会中央北ブロックでは、白川小学校の竹矢先生が、4年生のLet's Try! 2 Unit8 This is my favorite place.で「ALTの先生に白川小のお気に入りの場所を紹介しよう！」の第3時の授業を公開しました。完成したばかりの新校舎をALTの先生により良く紹介するためには、どんな工夫をすればいいのか、子どもたちはやり取りの相手をどんどん変えていく中で、楽しみながら伝え方や内容をレベルアップさせていきました。



中間評価で、5つのポイントを示し、子どもの言葉を引き出しながら伝え方と内容の具体をホワイトボードにわかりやすく整理していく工夫が見られました。



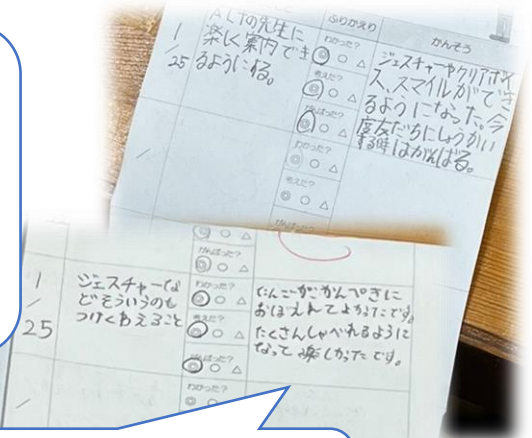
ALTの動画を見せて、自分の紹介と比較しながら、真似できそうな言い方を一緒に考えていきました。



相手を変えて何度もチャレンジしていく子どもたち。主体的に英語で伝えようとする姿あちこちで見られました。



全体で振り返りを共有することで、できるようになったことや、次時で頑張りたいことが明確になりました。



## 【授業研究会】

### 《竹矢百花先生の自評》

音楽室といういつもと違う場所であったが、子どもたちが普段と変わらずリラックスして授業を受けていた。めあてを教師主導で決めてしまい、子どもたちの言葉から引き出して作るべきであった。観察評価が十分にできず、一部の子どもしかできていなかったので評価の工夫をすべきであった。子どもたちがいつも通り明るく楽しそうにできていたことがよかった。

### 《質疑応答》

Q：単元のゴールはどのように作り上げたか？

A：子どもたちもまだ新校舎を使ったことのない時に単元のゴールを設定した。新校舎完成に子どもたちもワクワクしている中で「ALTの先生にも伝えたい」という思いを子どもから引き出して単元のゴールを設定した。お家の人への授業参観や地域の方との交流会も含む。

Q：3～4年での英語表現でどんなことを言うと単元のゴールになるのか？

A：ALTとのやり取りで **I like... This is... Do you like...?** を使う。お気に入りの場所に道案内で連れて行って **This is my favorite place is...** と説明するとパーフェクトに。

Q：話す視点については、子どもたちからの基準はどんなものが出てきたのか？

A：子どもたちから出た言葉を使う。今まではとりあえず出している感じであった。今日は話す視点について、「大きくしすぎない」などよく出ているなどと思った。

### 《協議①》 奨励点・改善点・さらなる疑問

#### ★中間評価

(奨励点) ・ALTの動画で、**Do you like~?** を取り入れてほしいという意図が伝わりやすかった。

・モデリングがあったことで、質問やジェスチャーの良さも出ていた。他の子どもにとっても良いモデルになっており、子どもたちも真剣に取り組めた。

・**My favorite...** 言うだけでも大変。理由まで言えることがすごい。どのような工夫があったのか？ → クラゲチャートを使って、日本語を使って書かしてみると理由を伝えることにもつながった。

(改善点) ・練習した後の最後のモデリングがあってもよかった。

・話し手側との違いを明確にすべきだった。Me, too. など聞き手が言う言葉をもとに、そうするためにはどのように言えばよかったかな、と考えさせてもよかった。方法面だけでなく、内容面での指示があればもっとレベルアップにつながったと思う。

#### ★指導のあり方・工夫

(改善点) ・ペア活動が多すぎたため、何ができて何ができなかったのかフィードバックがあるとよかった。

### 《協議②》 本日の授業からの学び

・伝えようとする気持ちが出ていて、方法面・内容面にチャレンジした授業だった。

・自己肯定感が低い子どもたちには、完璧じゃなくても **I love...** や **No.1...** などを使ったり、正しいフレーズを使わなくても、単語などを並べたりするだけでも伝わるということを先生が示すとよい。

・ループリック→パフォーマンス評価で、自分が今どの位置にいるのかを確認できるので取り入れてみるとよい。

### 《阪本校長先生のまとめ》 「教わる」から「学びとる」授業へ 子どもが主役の外国語教育

#### ○中間評価

「伝える内容と伝え方を工夫する」はどのように工夫するのが具体化されるのか、よりわかりやすいということはどういう風にするのがわかりやすいという意味なのか、子どもたちと共有することがポイント。友達の良さを共有し、学びを自己調整できるようにするために、何が変わったのか、何で変わったのかという変容が見取れるモデルを取り上げ、みんなで共有する場面が必要だった。この時に、自分の考えや気持ちが入っていたか、バージョンアップできていたかという視点が振り返りとつながっていく。

#### ○対話(言語活動)

「まずはやってみよう！」先生の呼びかけで、すぐに様々な相手とペアになり紹介をし合うなど、日頃からの対話の積み重ねがよく出ていた。繰り返しの練習が必要となるので、使いながら学ばせ、子どもに気づかせ、子どもから引き出し、他の子どもから学び取らせて、間違ってもいいから楽しさを伝える。使える表現のインプットや十分に慣れ親しませるには、Buzz practice, shadowing, repeating など様々な場面での発話量を確保していくことも必要。

#### ○振り返り

子ども一人一人が、自分ができるようになったことをメタ認知して、「何ができて、何ができていないから、どこをできるようにすればいい」ということを子どもが自覚しながら工夫できるようにする。